

上野 浩道(美術学部美術教育)

『芸術教育運動の研究』の思い出

本書は私の最初の著書という意味以上に格別の思い出が詰まっている。卒業論文では外国の美術教育思想をテーマにしていたが、大学院では日本を対象を定め、修士論文で山本鼎の自由画教育運動について考察した。山本太郎氏やこの運動の関係者、山本鼎記念館など聴き取り調査でいろいろお世話になった。博士課程では、絵画での運動の他に詩や綴り方、学校劇なども含めて展開された芸術教育運動について研究を進めた。芸術家が日本の教育に関心をもち教育改革に邁進した動機と内容、その思想的背景とその後の教育への影響などを分析した。20代から30代にかけての仕事で、成果の一段落として本書の形にして出版した。未熟なところもあるが、自分の問題意識の源流が確認できる。売れない本ということで、科研費の出版助成を得た。出版後、指導教官の一人から博士論文として提出しないかと勧められ、本を論文として提出できることを初めて知ったのもこの時である。

(2002年11月 教官アーカイブ展に寄せて)